

軍事極秘

第貳號

自昭和十九年九月一日
至昭和十九年九月三十日

陣中日誌

獨立速射砲第二十二大隊第一中隊



22147

10/22TA
9月

陣中日誌用紙

九月一日

晴

那 霸

一 〇八三ニヨリ兵隊被服、異敷検査ヲ實施ス

二 干拓環境整理

三 一五。別紙連ニテ露命第三號ヲ受領ス

四 本日、勤務員左ノ如シ

部隊日直士官 古山中尉

部隊内務曹長 佐藤兵長以下九名

日直下士官 藤田曹長

日直上等兵 清水上等兵 吉田上等兵

五 現在人員

將校 二 准士官 一 下士官兵 一〇七

九月二日

晴

那 霸

一 〇七三〇新仕地我如古ノ散營、夕ノ高畑少尉以下五名出発シ一五〇〇
歸營ス

二 兵隊被服、午入及初駐準備ニ終日ヲ使用ス

二 空

軍

一	初年身上調査ヲ實施ス
二	本日勤番員左ノ如シ
三	日直下士官 安倉軍曹
四	日直上等兵 賀上等兵 石川上等兵
五	現在在人員
六	將校 二 准士官 一 下士官兵 一〇七
七	一五〇〇村上曹長以下二〇名新仕地へ散營タノ先送ス
八	在營者全員終日身廻り品整理並に出発準備ス
九	一五〇〇別紙連三十二高輪命第九號ヲ受領ス
十	本日勤番員左ノ如シ
十一	内務衛兵司令 妹尾兵長以下五名
十二	日直下士官 菅 兵長
十三	日直上等兵 古川上等兵 荻森上等兵

連三連 護命第三聯

獨立連射砲第三大隊司令部令 九月一日辰時

一 九月一日以降當令ノ間左ノ順序ニ依リ部隊日直將校

- 九月一日 古山中尉
- 九月一日 伴中尉
- 九月一日 高橋中尉
- 九月一日 高橋中尉
- 九月一日 高橋中尉
- 九月一日 高橋中尉

九月一日より司令部衛兵ヲ左ノ通り差込シ服務セシム

- 九月一日 第一中隊
- 九月一日 第一中隊
- 九月一日 第一中隊
- 九月一日 第一中隊
- 九月一日 第一中隊
- 九月一日 第一中隊

三 予、現在地ニ於テ司令部令官ノ

高橋 大尉

連三王進高翰命第九卷

獨立速射砲第三大隊輸送命令 九月三日 甲辰夜

- 一 大隊(第三中隊) 九月四日現合營地ヲ撤シ任地
 科如古(首里東北方田科)へ前進セントス
- 二 各隊(第四中隊) 現時在地ヲ左列本部第一中隊
 へ順序ヲ以ツテ前進スベシ
- 三 西村主任中曹以下五名ハ部隊外ニ突發合營地設備
 撤收ノ整理ヲナシ急進スベシ
- 四 桑原中曹等六名ヲ指揮シ科如古ニ九時迄
 二到着スベシ
- 五 合營衛兵八名四日ニ時ニ合營地撤收スベシ
- 六 予備四日三時部隊ノ先頭ニヨリ

大隊長

高橋

大尉 附上

陸軍省用紙

五 現在人員

將校 一 准士官 一 下士官兵 一〇七

(古)

九月四日

一 〇三〇〇 宿營地甲隊學校ヲ出發シ新任地我如古ヘ向山行軍入全員並テ

二 〇六三〇 我如古ヘ着シ先登者、敵營計畫ニ基キ穴々宿營ス

三 一三〇〇ヨリ兵器被服手入及宿舍内外ノ清潔ノ整理ヲ實施ス

四 一六〇〇ヨリ中隊内務検査ヲ實施ス

五 〇八〇〇別紙連ニテ露命第四號ヲ受領ス

六 本日、勦滅完了ノ如シ

部隊日直士官 高畑少尉

内務衛兵司令 鶴宮兵長 以下九名

日直下士官 鈴木伍長

日直上等兵 花輪上等兵 内馬上等兵

那 晴
我 如 古

七現在人員

將校 二 准士官 一 下士官兵 一〇七

八別紙中隊宿營要綱作成ス

高橋部隊日之命令

九月五日〇八〇〇
井田古部隊本部

本隊本五日一〇〇〇ヨリ本町古山疎・順序ヲ以テ内務巡視ヲ實施ス
旅ッテ各隊ハ左ノ通リ心得ベシ

1 服装ハ其儘トシ各宿舎無ニ家屋前迄ニ列横隊ニ整列シ宿舎長
ハ指舎總人員ノ報告スヘシ

2 本町將校ハ隨行スヘシ

右記大隊日命令ニ基キ内務巡視ヲ實施ス

三日課時限、内一初左ノ通リ改ム

命令會報 一六〇。 夕食 一七三〇。

日夕占所 一九〇〇。

三別紙第一週週間學術科實施課定表作成ス

九月五日

晴

井田古

日出。六四〇
日没。一八四〇

九月五日。六〇〇〇
於 新 井 古
独立連射虎隊等々大隊司令部

一 大隊(宿舎)多シ(隊員)多シ(兵)多シ(宿舎)多シトス

二 宿舎之圖ニテ宿舎ノ別ヲ示シテ各隊ノ宿舎者ニ指
示セシム

三 宿舎衛兵(對空監視ヲ兼テ)ノ第一中隊ヨリ選出ス
服務ニ関スル指示ヲ副官ヨリ受ケシムヘシ

明日以降ノ差出ニ関シテハ高橋司令部ヲ用テ
二現ニ依ルベシ

四 日課時限ハ高橋司令部ノ指示ニ依リテ
五 給與ハ高橋司令部ノ指示ニ依リテ

六 宿舎長古田長之ヲ以テ

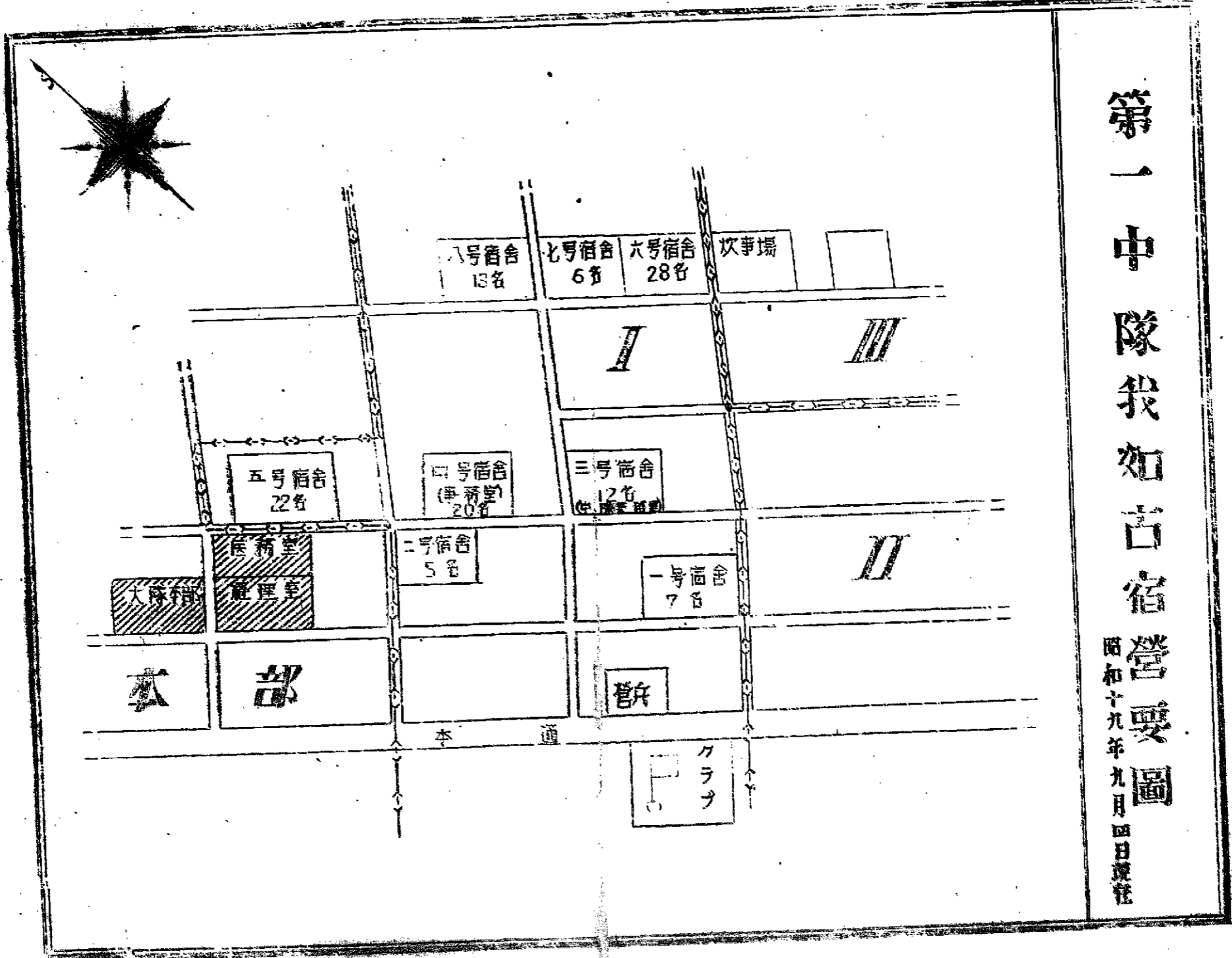
司令部司令官

高橋大尉

以上

第一中隊我如古宿營要圖

昭和十九年九月四日現在



陣中日誌用紙

四 本日、日課

自一三〇〇 至一五三〇 執銃教練ヲ官員施ス

五 本日、處有狀況左、如シ

下痢患者 三 脚氣 二 両側肺浸潤疑 一

六 本日、勤務實左、如シ

新隊日直士官 高橋准尉

日直下士官 小田兵長

日直上等兵 荒谷上等兵 大窪上等兵

七 現在人員

將校 二 准士官 一 下士官兵 一〇七



九月六日

晴

秋如古

本日、日課

自一〇九〇〇 至一三〇〇〇 不動姿勢及各個教練ヲ實施ス

自一三〇〇〇 至一六〇〇〇 TA 豫備 放 育ヲ實施ス

陸

軍

九月七日		晴	我 如 古
一	本日、日課		
二	自 〇八三〇 至 〇九三〇	新 兵 歩 哨 新 築 二 夜 十 學 科	
三	自 一〇〇〇 至 一〇〇〇	執 銃 各 團 散 練 二 實 施 ス	
四	自 一三〇〇 至 一六〇〇	執 銃 各 團 散 練 三 實 施 ス	
五	現在人員		
六	將 校 = 准 士 官 = 一 下 士 官 兵 = 一 〇 七		
七	日直上士官	佐藤三三 三兵 後藤上 三兵	
八	日直下士官	長谷川 伍長	
九	内務衛兵司令	森山 伍長 以下二名	
十	新隊日直士官	古山中 尉	
十一	本日、急病者状況	左、如シ	
十二	下痢盛者	二 脚 氣 = 西 創 師 櫻 田 一 急 性 咽 頭 炎 = 一	
十三	本日、勤務員左、如シ		

九月七日 晴 我如古

一、本日、日課

二、自 〇八三〇 至 〇九三〇 新兵歩哨新築二夜十學科

三、自 一〇〇〇 至 一〇〇〇 執銃各團散練二實施ス

四、自 一三〇〇 至 一六〇〇 執銃各團散練三實施ス

五、現在人員

六、將校 = 准士官 = 一 下士官兵 = 一〇七

七、日直上士官 佐藤三三 三兵 後藤上 三兵

八、日直下士官 長谷川 伍長

九、内務衛兵司令 森山 伍長 以下二名

十、新隊日直士官 古山中 尉

十一、本日、急病者状況 左、如シ

十二、下痢盛者 二 脚氣 = 西創師櫻田一 急性咽喉炎 = 一

十三、本日、勤務員左、如シ

本 部	陸 軍 中 尉	榎 岡 正 信
古 山 隊	陸 軍 曹 長	村 上 五 郎
古 山 隊	陸 軍 二 等 兵	清 水 貞 三
昨八日業務連絡、夕ノ部日歸隊、豫定ヲ以テ河野市へ出張ヲ命ジ、 左之部隊長、指示事項アリ。		
一、昨八日ハ大詔奉戴日ニキ、ハコヨリ本部中隊毎ニ詔書ヲ讀ム 可實施スヘシ		
服装ハ將校以下單獨ノ服装		
二、爾今四日ト八日ニハ夫々勅諭詔書ヲ奉讀スルコト		
本日、急病者状況左、如シ		
新 患 患 一 名 (急性咽喉炎)		
本日、勤務員左、如シ		
内務衛兵司令 柏倉 伍長 以下一〇名		

陸 軍

古山

日直下士官 竹原佐長
日直上等兵 吉田上等兵 清木上等兵
大現在人員
將校ニ 准士官 一 下士官兵 一〇七

九月八日

晴

我如古

一 大詔奉讀日ニマキ〇ハ〇ヨリ詔書奉讀式ヲ行フ

二 本日、日課

1. 自〇八〇〇 詔書奉讀 精神訓話ヲ實施ス
至〇九〇〇

2. 自〇九〇〇 軍紀教練ヲ實施ス
至一〇〇〇

3. 自一〇〇〇 軍紀教練ヲ實施ス
至一六〇〇

三 昨日、大隊白命ニ基キ村上曹長以下二名那覇市へ出張シ一六〇〇

四 陸隊ノ在日命令ヲ受領ス
九月八日一六〇〇

五 高橋部隊日々命令
我如古

1 古山隊 陸軍准尉 高橋儀助

聖為連絡、夕明九日即日歸隊、豫定ヲ以テ球部隊本部へ出張

ヲ命ス

2. 陸軍上等兵 佐々木子之助
命 陸軍二等兵 佐藤忠男

預習ノ通り喇以修業兵ヲ免命ス

五 本日、患者状況左、如シ

下痢患者 二 脚氣 二 急性咽喉炎 二 両側肺浸潤 一

六 本日、勤務員左、如シ

日直下士官 藤田兵長

日直上等兵 賀正上等兵 高林上等兵

七 現在人員

將校ニ 准士官 一 下士官兵 一〇七

古山

九月九日

一新築第二通週間學術科實施豫定表作成ス

約 日3月9 (曜) 日2月9 (曜) 日1月9 (曜) 日0月9

<p>部下及部下作業</p>	<p>掃陸及部下作業</p>	<p>掃陸及部下作業</p>	<p>一衛兵勤務ニ就テ 上等兵以上ニ高橋准尉 ニ各個教練(並座) 村上曹長</p>
<p>部下及部下作業</p>	<p>同上</p>	<p>同上</p>	<p>環境整理 半數掃陸作業シテ 那覇出張</p>

課 千 備 課 千 後 特別教育

晴 六如七

本日、日課

至一〇五〇〇 軍紀教練ヲ實施ス

二 千市一般環境整理
三 未〇〇 左衛門尉 受領ス
四 高橋新隊日々命令

九月九日 一六〇〇
秋 如 古

本九日千市火柱自動車柱柵之物那覇港ニ到着豫定ニキ受領者
差出時刻ハ別ニ定ム

四 昨八日、大隊命令ニ基キ高橋准尉 球部隊本部へ出張シ一八〇
〇 歸隊ス

五 本日、勤務員左ノ如シ

- 掃陸日直士官 高畑少尉
- 内務衛兵司令 佐藤兵長以下一〇名
- 日直下士官 安食軍曹
- 日直上等兵 益森上等兵 村上上等兵

六 現在人員

考 備	(曜)日16月9	(曜)日15月9	(曜)日14月9	曜
一 大隊行事アル時ハ本予定ヲ変更スルコトアルベシ 二 TA教育ハ第二梯團到着尖岩受領後実施スルモノトス 三 新中隊長方針ニ基キ教育予定ヲ変更スルコトアルベシ 四 中隊將校ヲテ機舎教育ヲ実施セルモノトス	63R TA 教育 高畑少尉 9.00 11.00	TA 教育 高畑少尉 9.00 11.00	TA 教育 高畑少尉 9.00 11.00	中隊長内務巡視 一 TA 機舎名簿 高畑少尉 9.00 11.00 二 操縦台及冊子有動 車置場作業 9.00 11.00 一 彈菜集積場設備 作業 9.00 11.00
	TA 教育 高畑少尉 9.00 11.00	TA 基本教育 (射撃用支那銃) 高畑少尉 13.00 15.00	TA 基本教育 (射撃用支那銃) 高畑少尉 13.00 15.00	一 赤羽港防務視 二 TA 基本教育 (射撃用支那銃) 高畑少尉 13.00 15.00

西中日誌用紙

將校ニ 准士官一 下士官兵 一〇七

一六〇〇左記日命ヲ受領ス

九月十日

九月十日 一六〇〇
我如古

曇後雨
我如古

1. 小笠原隊及田村隊ハ明日一日我如古ニ集結ス 宿營ニ就テハ我如古
 2. 荷物係 陸軍中尉 織田古吉
材料係 陸軍少尉 高畑 浩
- 本部及古山隊、火砲材料荷物揚陸、夕メ頭書、係將校ヲ命ス
3. 右、大隊日命ニ基キ高畑少尉ハ材料係ヲ命セラレ
 3. 昨九日、大隊日命ニ基キ〇八〇〇ヨリ高畑少尉以下五十二名火砲自衛隊
 3. 姓ニ相巨物受領、夕メ那覇港ニ出張セシム
 - 四 一八〇。後発部隊上陸中止、夕メ那覇港出張中、高畑少尉以下五十二名歸營ス
 - 五 本日、勤務員左ノ如シ

一六五

四

(古山)

九月十一日

我如古

一 後發部隊那霸市へ上陸ニシキ荷物揚陸ノ夕メ高畑少尉以下三十七名

那霸市へ出張ス

一六〇〇本職中隊長 陸軍中尉 西本光雄 着任ス

三 今時後發セル西本中隊長 藤田兵長到着シ中隊全員集結ヲ完了ス
九月十一日一六〇〇
我如古

本部 陸軍中尉 織田古吉
西本隊 陸軍少尉 高畑 浩

部隊日直士官 高橋准尉
内務衛兵司令 森山伍長以下一〇名
日直下士官 小田兵長
日直上等兵 佐藤上等兵 佐々木(定)上等兵

六 現在人員 將校 一 准士官 一 下士官兵 一〇七

(古山)

九月十二日

我如古

荷物揚陸ノ夕メ二泊三日、豫定ヲ以テ那霸市へ出張ヲ命ス

四 本日、患者収込左ノ如シ

新患 二 (マラリア) 下痢 一

五 本日、勤務員左ノ如シ

部隊日直士官 古山中尉

日直下士官 長谷川伍長

日直上等兵 北山上等兵 重森上等兵

六 現在人員

將校 三 准士官 一 下士官兵 一〇九

一 本日、日課

第二梯團到着ニ伴ヒ全員荷物搬送勤務ニ従事ス

本日、勤務員左ノ如シ

内務衛兵司令 鈴木伍長以下一〇名

本

頁

九月十三日

晴

我如古



日直下士官 竹波恒長
 日直上等兵 山川上等兵 賀上上等兵
 三 現在人員
 將校 一 准士官 一 下士官兵 一〇九

一〇七〇〇中隊長着仕操場地ニ訓練 時自左如シ

(一) 鐵石ノ團結

ハ 陛下ノ股肱ニ臣タレ

2. 嚴正ナル軍紀

3. 幹部ヲ信賴セヨ

4. 湘断ヲスルナ

ト 衛生ニ注意セヨ

二 九時ヨリ中隊長内務初度巡視

三 一三〇〇大隊本部ヨリ左記兵隊ヲ要領ス

同上前所載

1. 一式機動四七粒砲(四層吊夫) 一門

2. 豊田自動車 一輛

3. 九六式自動車牽引車 二輛

四 本日、隘者状況左、如シ

新患 二名 (下着)

五 本日、勤務員左、如シ

内務衛兵司令 藤田(筋)兵長以下一〇名

日直下士官 柏倉 恒長

日直上等兵 米原上等兵 賀上上等兵

六 現在人員

將校 三 准士官 一 下士官兵 一〇九

九月十四日

晴



一 本日、日課

1. 火砲自動車ヲ入地道路補修作業從事ス

卷

頁

我川古

2. 一三三〇ヨリ 陸軍部ニ於テ將校以下全員赤河渡防務ヲ任ス
一 高橋部 隊日々命令
九月十四日一六〇〇

西本 陸軍曹長 村上 五郎

同 陸軍一等兵 上藤 徳藏

明十五日事務連絡ノ夕ノ即日歸隊ノ豫定ヲ以テ那覇市ニ出立ヲ

命ス

三 二四〇〇 別紙 獨逸三十二作命第二號ヲ受領ス

四 本作命ニ依リテ 中隊命令ヲ下達ス

獨逸 三十二大隊第一中隊命令
九月十四日二四〇〇

中隊ハ獨逸三十二作命第三號第三項ニ基キ 對空射撃部隊ヲ編成待機

スヘシ 編成別紙ノ如シ
中隊長 西本 光雄

五 本日ノ處置状況左ノ如シ

新憲 一名 (下痢)

速ニ作命第二號

獨逸速射隊第三十二大隊命令

一 海軍情報ニ依リ 本島ヨリ 朝來「マニラ」地区ハ 敵艦上陸ヲ

受ケタツアリ 又敵機前部隊ハ フィリピン沖合ヲ 遂次北上シテ

九月十四日

速ニ作命第二號

獨立速射砲第三大隊命令

九月十四日
於我如古

一、海軍情報ニ依レバ本十四日朝来「マニラ」地区ハ敵艦上機攻撃ヲ

受ケツアリ又敵機動部隊ハフィリピン沖合ヲ遂次北上シテ

ノ如ク明十五日拂曉以降敵機來襲ノ公算大ナリ

ニ、大隊ハ師團ノ企圖ニ基テ軍需品中彈藥燃料ノ疎開遮蔽ヲ

實施スルト共特ニ空襲ニ對シ警戒ヲ嚴メントス

三、第一第二中隊ハ對空射撃部隊(小銃編隊一小隊)ヲ編隊待機

シテハス

四、第三中隊ハ對空監視哨(長以下八名(兩以二合))ヲ我如島東

端台ニ配置シ對空警戒ニ任ズ

五、各隊ハ速カニ彈藥ヲ受領シ分散、偽裝、遮蔽ニ努ムハシ

六、予ハ大隊本部ニ在リ

大隊長

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

對空射擊部隊編成表 西本隊

分隊長	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
伍	兵	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
鈴木政雄	佐藤治規	石川英男	葛森正	虎谷武一	清水修一	古川辰治	佐々木定義	工藤徳藏	前野勝夫	齊藤辰雄	清水貞幸	青木貞雄	松本条雄	沼袋重次郎
區分階級	區分階級	區分階級	區分階級	區分階級	區分階級	區分階級	區分階級	區分階級	區分階級	區分階級	區分階級	區分階級	區分階級	區分階級
氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
西田辰夫	細川榮作	横尾清勝	加野輝男	市原義春	竹内直雪	佐藤忠男	藤澤純治	稻垣重藏	大野一男	中川豊作	吉田治	福本重藏	酒井三郎	賀好貞男

- 一、服装、背囊ヲ除ク、鐵帽、被甲、擬裝網携行ス
- 二、警戒警報發令サレタナラバ集合ノコト
- 三、各人小銃彈六〇發携行

臨時用紙

大本目、勤務員左、如シ

日直士官 高畑少尉

日直下士官 菅 兵長

日直上等兵 阿部上等兵 吉田上等兵

七 現在人員

將校 三 准士官 一 下士官兵 一〇カ

八 別紙中隊編成表作成ス

彈藥置場ヲ構築ス

九月十五日 高橋 副隊長 九月十三日 一六〇〇

秋如古

副官 陸軍中尉 西本光雄

同 副官 陸軍中尉 川瀬要吉

2. 教官 陸軍中尉 福島平之祐

助教官 陸軍兵長 鶴宮實夫

一 陸

陸

樟從牛特別教育教官助教ヲ命ス

3. 西本隊 陸軍曹長 村上五郎

須菩提隊ノ復命作官ヲ命ス

三. 一七〇。別紙欄連三十二作命第三號ヲ受領ス

四. 右作命ニ依リ左ノ中隊命令ヲ下達ス

欄連三十二大隊第一中隊命令

五月十五日一七〇

中隊ノ欄連三十二作命第三號第三項ニ基キ對空射撃部隊ノ編成ノ解

中隊長 西本光雄

五. 昨十四日、大隊命令ニ基キ那覇市ニ出張中ノ村上曹長以下二名一六〇

〇歸隊ス

六. 自九月十六日、間週番勤務員左ノ如シ

週番士官 陸軍准尉 高橋 康助

同 下士官 同 兵長 妹屋 金弥

同 上等兵 同 上等兵 産谷 武一

一敵情ニ關シテハ其ノ後新報ヲ得ズ各部隊ハ原態勢ニ復歸ヲ命ゼラル
二大隊ハ原態勢ニ復歸シ前任務ヲ續行セントス
三第一第二中隊ノ對空射擊部隊ヲ特機ハ之ヲ解ク
四第三中隊ハ速ニ對空監視哨ヲ撤收スベシ
五予ハ大隊本部ニ在リ

大隊長

高橋

巖

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

通番上等兵 陸軍上等兵 蒼木正

七 本日、勤務員左、如シ

日直士官 高橋准尉

日直下士官 佐藤兵長

日直上等兵 後藤上等兵 高林上等兵



八 現在人員

將校 三 准士官 一 下士官兵 一〇九

九月十六日

風雨

我如古

一 別紙第三通傳材料實施態定表作成ス

二 中隊編成表別紙、如シ

三 本日、日課

1. 下士官以上官野澤ニ於ル「ハブ」習性實驗教育ニ出席ス

2. TA 教育ヲ修身施ス

四 本日、勤務員左、如シ

日 期	(曜) 日 7 月 9	(曜) 日 8 月	(曜) 日 7 月 9	日 期
射撃操作	分射 (基本) 射撃操作	射撃基礎動作 砲手、定位及姿勢	豫防接産	課 目
8:30~11:00	8:30~11:00	9:50~11:00		時間
全 上	全 上	分射 (基本) 射撃操作	休 養	課 目
10:00~16:30	13:00~15:30	13:00~15:30		時間
幹部教育 米軍戦法 300		幹部教育 精神教育 100		特別教育

日 期	課 目	時間	特別教育
本月十七日	本日、日課	1. 自 08:30 至 10:00 TA 教育ヲ實施ス	
我如古	2. 一〇三〇ヨリ医務室ニ於テ三種混合豫防接種ヲ實施ス 登熟者五名ニシテ他ハ經過良好ナリ		
	二 大隊本部ヨリ左記彈藥ヲ受領ス		
	1. 徹甲彈 一五四箱 2. 榴彈 三九箱		
	3. 小銃實砲 一六二〇発		
	三 現在在人員		
	將校 三 准士官 一 下士官兵 一〇九		
	四 別紙軍司令官訓辭受領ス		



四 務衛兵司令 藤田兵長以下一〇名

將校 三 准士官 一 下士官兵 一〇九

考 備	(曜土)日23月	(曜金)日22月	(曜木)日21月	(曜)
一。幹部教育ハ下士官以上トス ニ射撃操作ハ本表ノ外朝夕手入時分隊長ヲシテ履修セシム	環境整理	分射(基本) 射撃操作	豫防接腫	
		8.30~11.00		
	全	全	分解結合 (全手入)	
		13.00~15.30	13.00~16.30	26

訓 示

國歩漸ク難キノ秋死生ヲ偕スヘキ兵團長ト一堂ニ
會シ其ノ雄風ニ接シテ所懐ヲ開陳スルノ機ヲ得ルハ
本職ノ是ニ本懐トスル所ナリ 曩ニ本職ハ雲六ツ
大内山ニ召サレタシキヲ軍統率ノ重責ニ享ス然レテ敢
何ヲ以テカ之ニ替フニ
惟フニ曠古ノ危局ニ直面セル皇國ガ驕米ヲ撃滅シテ
狂瀾ヲ既倒ニ回スベキ天機ハ今ヤ目捷ノ間ニ在リ
而シテ軍ノ屯スル南西諸島ノ地タル正ニ其ノ運命決スベキ
決勝會戰場タルノ公算極メテ大ニシテ實ニ皇國興廢
雙肩ニ負荷シタル要位ニ在リ 仍テ本職深ク決ス所ヲ奉シ
明勅ヲ奉シ慎ミテ前官倅隊ヲ踏ミ堅ク部下將兵

忠勇信倚之壯嚴ニシテ雄渾ナル會戰斷行善ニ完勝御達ヲ
慕進ニシテ

聖旨ニ對テ奉ランコトヲ期ス

之が爲茲ニ本職統率ノ大綱ヲ披握シテ要望スル所アリ
第一、森嚴ナル軍紀ノ下、鐵石ノ團結ヲ固成スベシ
常住坐臥律ニ

勅諭ヲ奉體シ之が具現ニ邁進スベシ特ニ上下相
共ニ禮讓ヲ守リ、隊長ヲ中心トシテ融々和樂、周明朗
潤、遠戰鬪苛烈ヲ極ムルニ系亂レタル軍團ヲ團結シ
然レドモ非違アラハ斷乎之が及除ニ些ノ躊躇アルベク
第二、敢鬪精神ヲ發揚スベシ

準備ニ邁進シテ必勝ノ信心ヲ固メ、敵ノ來攻ニ力
戰鬪慘烈ノ極所ニ至ルニ最後、一兵ニ至ル迄敢鬪精
神ヲ堅持シ、泰然トシテ敵ノ擊滅ニ任セラルベカラス
第三、速カニ戰備ヲ整ヘ且訓練ニ徹底シ斷シテ不覺
取ルベカラス

敵ノ奇襲ニ對シ備エツツ築城ノ重點ニ注意シ時日
之ヲ許サバ之ヲ普遍化シテ難攻不落ノ要塞ト
共ニ訓練ヲ精到ニシテ精銳無比ノ鋼鐵軍トシ
以テ敵ノ奇正兩様ノ猛攻ニ遇フニ斷乎之ヲ擊滅スル要
第四、海軍航空及船舶ノ緊密ナル協同運轉ヲ保持スベシ
今次作戰ノ成否ハ陸海空船四者ノ協同ニ懸ルコト極
大ナリ宜シ進シテ關係部隊ト連絡シ特ニ精神の統一

保持シテが統合戦力發揮ニ勉ムベシ
 第五「現地自活ニ徹スベシ」
 極力資材ノ節用増産貯藏等ニ勉ムルト共ニ創意更
 ラカヘテ現地物資ヲ活用シ木一草ト雖モ之ヲ戦力化スベシ
 第六「地方官民ヲ喜ニテ軍ノ作戰ニ寄與シ進ニテ郷
 土ヲ防衛スル如ク指導スベシ」
 之が爲ニ郷ニ地方官民ヲ指導シ喜ニテ軍ノ作戰準備ニ
 協賛シムルト共ニ敵ノ來攻ニ方リテハ軍ノ作戰ヲ阻礙スルコト
 進ニテ戦力増強ニ寄與シテ郷ヲ防衛シムル如ク指導スベシ
 第七「防謀ニ嚴ニ注意スベシ」

右訓示ス
 尚細部ニ關シテハ軍參謀長ヲシテ指示セシム

昭和十九年八月三十日

軍司令官
 牛島 滿

陣中日誌用紙

九月十八日

我如古

晴
山の大ニ五
没一八三〇

九月十九日

我如古

晴

一 〇八三〇ヨリ下士官以上大隊幹部教育ニ出席ス

二 一〇三〇ヨリ軍紀原紀ニ趣テ中隊全員ニ對シ精神訓話ヲ實施ス

三 一三〇〇ヨリTA教育ヲ實施ス

四 本日、患者狀返左ノ如シ

急性腸炎 三 左側中耳炎 一 急性咽喉炎 一

現在人員

將校 三 准士官 一 下士官兵 一〇九

本日、日課

一 自 〇八三〇 TA 教育ヲ實施ス

二 自 一三〇〇 TA 教育ヲ實施ス

三 大隊本部ヨリ左記彈藥ヲ受領ス

徹甲彈 二七四箱

四 本日、患者狀返左ノ如シ



九月二十日

晴

我如古

外務校 一 昭模疑 一
現在人員

將校 三 准士官 一 下士官兵 一〇九

一 下士官以上大隊幹部教育ニ出席ス

二 岡本軍曹外二名火砲修理ノタメ仲岡兵器所へ出張ス

三 高橋部隊日々命令

九月二十日一六〇〇
我如古

陸軍少尉 高畑 浩

陸軍中尉 (九月五日附陸軍省)

陸軍二等兵 中川 豊作

四月二十一日ヨリ三日、豫定ヲ以テ兵器製衣作ノタメ球部隊
兵器部修理所(在那覇市)へ出張ヲ命ス

四 本日ノ勤務員左ノ如シ

内務衛兵司令 森山 恒三以下一〇名

五 情報

1 球部隊ノ通報ニヨレバ最近敵ハ大宮島ヲ基地トシ本土及南西諸島ニ

面ニ対シ哨戒ヲ實施シテ九月十七日十九日海軍機ニト遭遇シテ

九日少(南西諸島大東島)機中附近ニ於テ海軍機ニ對テ襲撃ト

交戦セリ 右附近ニハ敵母ヲ有セル敵機動部隊出動セシモノ如シ

2 海軍ヨリ、通報ニ依レハ小笠原諸島西方一八〇哩(北大東島西方

七三〇哩)本島ヨリ東方三〇〇哩)ニ敵機動部隊出現ノ疑アリ

敵機動部隊ハ二十日ヨリ第一警戒配備ニツキ南西諸島ニ進入

3 敵機動部隊ハ十九日小笠原諸島西ノ海峽ニ出現セリ 竹在艦

哨戒機ハ十五日以來日出前後飛行機五機ヲ以テ本島海上哨戒シ

4 十九日一八三三登美大島 善界島南島六千米ニ敵潜水艦一隻

潛航中ニ見セリ

六 現在人員

將校 三 准士官 一 下士官兵 一〇九



九月二十日

秋田古

〇九三〇ヨリ中隊將校以下全員は希望。於テ第三回赤痢豫防接種ヲ實施ス

一三〇〇ヨリ六隊本部ニ於テ實施、人事班功績事務打合せ會ニ高橋

准尉出席ス

三〇〇ヨリ高橋部隊日々命令

陸軍軍曹 岡本俊男

本二十一日兵器修理、夕ノ即日編隊、豫定ヲ以テ那覇市へ出張ヲ命ス

四 右大隊日命ニ基キ岡本軍曹那覇市へ出張シ一七。〇歸隊ス

五 情報

敵飛行機五十機以上二〇〇〇カラ二一〇〇ノ間成都ヲ出撃、内地朝鮮

滿洲警戒ヲ要ス

大 現在人員

將校三 准士官一 下士官兵一〇九

九月二十日

一 隊内週回問學術科實施施設表作成ス(別紙)

二 〇八三〇ヨリ TA 隊去月ヨリ實施ス

三 〇〇〇ヨリ A 教育ヲ實施ス

高橋部隊日々命令

週番司令 陸軍中尉 小笠原道生

副官 陸軍曹長 村上五郎

九月二十三日ヨリ頭書、通リ週番勤務ニ服スベシ

自九月二十三日 至九月三十日 間週番勤務員左ノ如シ

週番士官 陸軍中尉 古山貞一

同 下士官 陸軍伍長 長谷川一雄

同 上等兵 陸軍上等兵 石川英男

同 同 陸軍上等兵 佐々木定義

五 本日、勤務員左ノ如シ

内務衛兵司令 鈴木伍長以下一口名

大情報

ト、フィリピン東部海上機動部隊北上シツツアリ

大東島被撃不明機在リ

今晚明朝ニカケテ撃退ス

七現在人員

將校三 准士官一 下士官兵一〇九

秋季皇靈祭

一 和經縣人ヨリ成ル慰問演藝開催ニツキ全員干前午何、一四二別
レ慰問ヲ受ク

二 大隊日命ニ基テ那覇市球部隊兵器修理所ニ出張中
中川ニ寄兵一七三〇歸隊ス

三 現在人員

將校三 准士官一 下士官兵一〇九

日	日	日	日	日
水	木	金	土	日
日27月9	日26月9	日25月9	日24月9	日
全 右	分戦(基本) 脱架進入撤去	分戦(基本) 脱架進入撤去	精神訓話 中隊長 戦闘間兵一般心得	豫防待機
8:00 11:00	8:00 11:00	10:00 11:30	8:30 9:30	
全 上	全 上	全 上		環境整理
12:00 16:30	12:00 16:30	12:00 16:00		
				特別教育

考 備	(曜土)日30 月9	(曜金)日29 月9	(曜木)日28 月9	(曜)
分戰基本	2.30~11.00	11.20 12.00	8.00 11.00	全 右
環境整理				分戰(練合) 緊要進入撤去 12.30 16.30
一次機動 四七機動普及教育 下士官以上				

陸中自衛隊

九月二十四日

秋如古



九月二十五日

秋如古

一 〇九三〇ヨリ医務室ニ於テ第二回三種混合豫苗接種ニ實施ス

二 大隊本部ヨリ左記兵器ヲ受領ス

三 豊田自動車 一輛

四 九六式自動車 二輛

五 本日、患者状況況左ノ如シ

六 新患 一名 (急性咽喉炎)

七 現在在人員

八 將校 三 准士官 一 下士官兵 一〇九

九 自〇八三〇至〇九三〇 戦闘間兵一般ノ心得ニ就テ精神訓話ヲ實施ス

一〇 2. TA 分隊戰鬥教練ヲ實施ス

一一 本日、勸告員左ノ如シ

一二 内務衛兵司令 佐藤兵長以下一〇名

陸

庫



九月二十六日

晴

我如古

三現在人員

將校三 准士官一 下士官兵一〇五

一、自〇八〇〇 TA 分隊戰鬥教練ヲ實施ス

二、自一三〇〇 TA 分隊戰鬥教練ヲ實施ス

三、自一六〇〇 TA 分隊戰鬥教練ヲ實施ス

本職九月三十日別紙速射砲分隊教練查閱計畫ニ基キ各中

隊ノ查閱ヲ實施ス

2. 本部 陸軍中尉 織田古吉

イ 隊 陸軍伍長 鈴木政雄

來ル九月二十九日ヨリ津霸國民學校ニ於テ實施ナルル對空對戰

車射擊教育ニ專修員トシテ參加ヲ命ス

細部ニ關シテハ織田中尉ヲシテ指示セシム

三現在人員

重砲射擊分隊教練ニ基キ查閱計畫ニ基キ實施ス

一目的 短期間教育ニ於ケル各隊ノ分隊基本教練ノ進度ヲ查閱シ戰

場緊急課目ノ基礎ヲ確立セシム

二課目場所 時間ノ配當別紙第一ノ如シ

三本查閱ニ於ケル補助官左ノ如ク命ズ

陸軍中尉

伴 一衛

同

福島 兵之祐

同

梶岡 正信

同

古山 貞一

同

林 健一

同

葛城 忠太郎

陸軍准尉

高橋 儀助

四對抗部隊並ニ資料、差出區別紙第二ノ如シ
 五講評別ニ示ス
 六各隊ハ本計畫ニ基キ細部ノ受閱計畫ヲ立案ニ九月二八日
 九時迄ニ四部提出スベシ

九 月 三 十 日		日次					
講評	第三中隊	第二中隊	第一中隊	查閱開始	進行順序	時間配當	課目
1. 各隊ハ開始十分前迄ノ所定ノ位置ニ準備完了スルモノトス 2. 各隊ノ受閱位置同一箇所トス	準備	準備	準備	準備	準備	準備	分隊基本 1. 射擊所並ニ目標 2. 射擊命令 3. 射擊動作 4. 移動目標 5. 個々目標
	10'	50'	20'	50'	20'	50'	

課目 場所 時間配當

對抗部隊(資材)差出(準備)区分表		資材	
隊別	進出区分	人員	資材
第一中隊	下(兵長)	一	對抗部隊、長本部兵器練習用具、將校及各隊兵器練習用具、並に所要資材ヲ準備スルニトス
第二中隊	下(兵長)	一	
第三中隊	下(兵長)	一	
第一中隊、准尉對抗部隊、長トシテ各隊、下士官兵ヲ併シ指揮スルニトス			

中日適用紙

備考	本日ノ日課
曇時之雨	1 自〇八三〇 TA 分隊戰鬥教練ヲ實施ス
我如古	2 自一三〇〇 TA 分隊戰鬥教練ヲ實施ス
	三四〇〇中隊非常時集結ヲ實施ス
	三 現在在人員
	將校 三 准士官 一 下士官兵 一〇九
九月二十八日	一六〇〇左記日命ヲ受領ス
晴	高橋部隊日々命令
我如古	高日命第一六號第三項、査閲ヲ初合ニ依リ明二十九日ニ繰上ケ實施ス
	査閲時ニ於テル服装ヲ左ノ通り規定ス
	一 受閱者
	將校以下夏衣ニ代ヘ防暑略衣夏襦袢ヲ着用シ板甲 水筒備装



三三三

網(個人支給)ニ着注ス

2 見學者

上衣ヲ防暑路水又ハ夏襦袢ニ代ヘ徒手帶劍卷脚絆着用トス

九月三十日ヨリ三日間別紙「一式機動四七性座教育計画」ニ基テ教育

ニ實施ス

但シ他隊ヨリ、專修員并スル給養ハ本部ニ於テ擔任スヘシ

別紙分隊射撃基本訓練受閲計画表作成ス

三 一三〇ヨリ查閱疎行演習ヲ實施ス

四 一八三〇中隊長ヲ受閲ニ関スル注意並訓練詳

五 本日、勤務員左ノ如シ

内務備兵司令 藤田 兵長以下一〇名

六 現在在人員

將校 三 准士官 一 下士官兵 一〇九



一式機動四七性座教育實施計畫書 大原本部

一、目的
一式機動四七性座技術的診斷並取扱上、技術的指導ヲ行ヒテ戰力、向上ニ資スルニ在リ

二、主要實施項目
1. 各主要部位構造機能理解徹底
2. 閉鎖機、駐退復生機及連桿機ノ分解調整法ノ指導
3. 故障排除修理方策ノ指導
4. 支給火銃、受取ノ把握

三、實施要領
多數人員ニ取扱ヲ徹底シ戰力向上ニ資スル如ク實施ス

四、指導官
陸軍技術中佐 副松 專
准尉 津野 光雄

五、實施場所
1. 實施期日 九月 二十日(三日間)

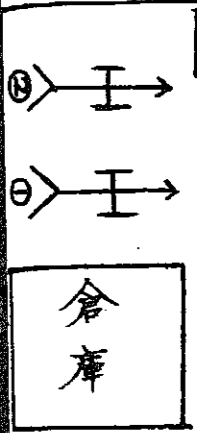
2. 場所 陸軍本部事務室前

六、使用兵器及參加範圍
1. 各中隊ノ教育實施期間中毎朝遠處二月ヲ實施場所準備シアルモノトス

2. 參加範圍各隊、下士官以上全員

~~15分~~ full

15分	20分	15分		時間	所要
<p>停止目標ニ 對スル 照準 撃發</p>	<p>砲塔戰車及 移動目標 照準 撃發</p>	用意解除	射撃手用意	目的	信念ヲ涵養セシム
<p>各砲手ヲ繰上交替 セシメ全員実施 セシム</p>	<p>二乃至五番ノ 操作ヲ演練ス （情況ヲ設テ砲手交 替セシム）</p>	令	各砲手ヲ繰上交替 セシメ全員実施 セシム	課目	分隊射撃基本訓練受閲計畫
令	<p>一分隊長射撃號令 二三番ノ操作 ノ分画筒ノ修正 又裝填要領 三發射後、其檢 査射距離高角修正 要領 三四番ノ操作 ノ高低方向轉把同時 操作 之ヲ修正スル要領</p>	令	<p>二五番ノ共同操作 二三番ノ其檢動作 各砲手ノ連繫 三四番ノ其檢要領 各止檢操作要領</p>	着眼	一隊
右			<p>二補助官ノ要求 ニ實施要領ニ變更 ヲミルコト有ルベシ 二仮設敵ノ運用及 實施部隊ノ指導 ハ教官トス</p>	備考	



五指導官ト協議ニ基キ變更スルトアリ

二月二十九日

我如古

高日命第十八履ニ基キ〇ハ。ヨリ我如古南方五〇。米ノ地矣ニ於テ

連射砲分隊教練查閱ヲ受麗ス

一般ノ成績概テ良好ニシテ即時戦斗ニ得リモノト認メト、要日ノ講解
ヲ受フ

二 十位 環境整理
三 十位 高橋部隊日々命令

九月二十九日一六。市

1. 通番司令 陸軍中尉 田村繁行

同 副官 同 曹長 津幡義治

2. 明三十日ヨリ頭書ノ通リ通番勤務ニ服スヘシ

陸軍曹長 村上五郎

3. 來週々番副官津幡曹長不在間交替服務スヘシ

1 隊 陸軍准尉 高橋儀助

同 伍長 木村山武夫

十月二日ヨリ二日間大里國民學校ニ於テ實施サレル射撃庫内薄皮撃子ニ

寺修司トシテ参加ヲ命ス

依ンテ二日ノ九。〇。迄ニ高橋准尉指揮ニ依リ同校ニ至ルハシ

服装ハ軍装(背囊、被甲ヲ除ク)トス

自五月三十日 間週番勤務員左、如シ

田 番士官 陸軍中尉 高畑 浩

同 下士官 同 俣曹 安食 登

同 上等兵 同 上等兵 佐藤 三雄

五 現在人員

將 校 三 准士官 一 一 士官兵 一〇九



六 一七。〇。別紙連ニ依リ命内第一號ヲ受領ス

別紙第五週週間學術科實施豫定表作成ス

〇八〇。ヨリ下士官以上一式校勤四七粒砲普及教育ヲ受教ス

〇八三。ヨリ隊射撃訓練ヲ實施ス

四 午飯武界被服ヲ入ヲ實施ス

九月三十日

曇

秋如古

同日六三〇
同日一八二五

大 陸 軍

第 一 師 團

第 一 旅 団

我如古

〇八三〇ヨリ及隊射擊訓練ヲ實施ス

日六三〇
日一八二五

四 午砲武界被服ヲ入ヲ實施ス

下連法 命令後領者ヲ集メ口達筆記セシム
大隊長 高橋 貞

連三三作命丙第一號

獨立連射砲第三大隊命令

九月二十九日三〇〇
於我如古

一 大隊ハ右作命第六八號ニ基キ師團ノ軍需品輸送協力セシム
二 林中尉ハ左ノ人員車輛ヲ併セ指揮シ明三十日十四時沖繩埠頭
到リ師團輜重隊長ノ處處下ニ入ルベシ

一、三、三 中隊 自動貨車 二輛 (標幟 行共)

本部 自動貨車 一輛 (標幟 行共)

三 宿泊給養師團輜重隊ノ擔任トス
四 細部關シテ林中尉指示スベシ

下連法 命令後領者ヲ集メ口達筆記後印刷配布
大隊長 高橋 貞

考 備	(曜日) 日7 月10	(曜日) 日6 月10	(曜日) 日5 月10	(曜日) 日4 月10	(曜日) 日3 月10	(曜日) 日2 月10	(曜日) 日1 月10	日 時
	兵器被服手入	兵器手入就手	道路補修作業	道路補修作業 精神訓練精話式	兵器檢查	兵器手入	實彈	射擊準備
		9:00 11:00	8:30 11:30	8:30 11:00	7:40 8:30	8:00 11:30		
	環境整理	糧藥搬送作業	企上	道路補修作業	分射	休養	射擊	分射(基本)
		13:00 15:00	13:00 14:30	13:30 16:00	13:00 16:00			
								特別教育
			浴入				一式 四七靴靴 普及教育 浴入 下士官以上	